

株式会社 リム精工

対 象 類 型	立体造形
事 業 類 型	小規模模型 設備投資のみ
主たる目的	立体見本の加工製作

デスクトップ型・新世代彫刻マシンの導入による 眼鏡用異型リム線模様付け見本の作製



- 1 1/導入されたデスクトップ型・新世代彫刻マシン。この導入により見本製作のスピードが大幅に向上。 2/取引先のニーズに合わせて様々な模様が付いた金型。 3/リム線が金型を通り、精緻な模様が刻まれる工程。 4/チタンや弾性合金などのリム線から誕生するデザイン性の高い眼鏡、越前漆器とのコラボ製品の数々。

立体見本製作の即応力がもたらすビジネスチャンス。

近年、眼鏡のメタルフレーム全体の需要が減少しつつあるなか、模様リム線を施したメタルフレームだけは、増加傾向にある。同社では、取引先である多くのメーカーや海外バイヤーから、新しい模様のリム線の問い合わせが増えていることから、このビジネスチャンスを活かす取り組みを強化。デスクトップ型・新世代彫刻マシンを導入し、即応力を高めた。これにより、取引先の要望に合わせたデザイン試作に要する時間が大幅に短縮でき、ビジネスチャンスを逃さない積極的な提案が可能になったのである。

こうした事業の一環として販路拡大に取り組み、ヨーロッパで開

催される展示会への出展や、同社の技術を海外メーカーに直接アピールする活動など、海外市場の新たな獲得にも乗り出している。

また、地元福井県の伝統的工芸品をはじめ、眼鏡とは異なる業界への模様リム線の転用なども期待でき、すでに越前漆器とコラボレーションしたもののづくりにも着手している。漆器には抗菌性があることから、模様リム線に漆を塗った眼鏡フレームや、漆器の表面に、装飾性の高いリム線が美しい表情をつくり出すトレーなどの開発も進み、多彩に意匠性を表現するリム線の可能性が大きく広がっている。

注目すべき 成果

ニーズへの即応力と
多彩なデザインで
ビジネス機会を創出。

従来は受注した模様の見本を取引先に提示するまでに多くの時間を要し、材料ロスも出ていた。今回のマシンの導入により、模様の判りやすい立体見本を短時間で作成でき、また、材料ロスのゼロ化にも繋がっている。

事業活動の 付加価値

模様リム線の
異業種転用で
新たな価値を創造。

立体見本を製作する際の省力化が図られたことで、さまざまな立体見本づくりに取り組む積極提案型のビジネスが可能になった。その一つに、リム線の模様を個性とした異業種とのコラボレーション製品の開発がある。

今後の展望

オリジナルの模様リム線と
フレームデザインの
自社ブランドを確立。

模様リム線の用途拡大を図るとともに、同社の技術力を活かし、レンズメーカーと提携して斬新な模様リム線の眼鏡(最終製品)を独自に開発。新たなトレンドを生み出すオリジナルブランドの確立を目指している。

ものづくり専門員から一言

培われてきた技術を 具現化しお客様へ

顧客に対し正確かつ、リアリティあるアプローチが可能となり、従前までのイメージ違い等による商談ロスの減少や打ち合わせ時間の短縮を含め、総体的に受注のスピード化を図っている。培われてきた確かな技術力を活かし、自社ブランドの立ち上げや、他業種との商品開発も積極的に展開している。約200工程もある眼鏡生産を支える技術力を活かした事業展開に大きな期待が持てる。

こんな会社です！

異業種とのコラボ製品にも取り組む どこにも負けない発想力と技術力が信条！

株式会社リム精工は、社名にあるように眼鏡用リム(メタルフレーム)の会社として、昭和27年に創業。現在は眼鏡用特殊リムの製造・加工、ペンディング加工や材料販売を行い、日本はもとより欧米諸国、韓国、中国、香港でも実績をもつ会社です。

デザインの多様性が要求される現代の市場環境のなかで、同社はそれに答え得る技術力とニーズへの即応力を戦力とした事業を展開しています。また、柔軟な発想力を活かし、異業種とのコラボレーションによる幅広い分野に応用範囲を広げた製品開発にも積極的に取り組んでいます。



代表取締役
佐々木 克彦さん



模様リム線



新工場

株式会社 リム精工

代表者/代表取締役社長 佐々木 克彦
設 立/1952年(昭和27年)4月
法人設立/1981年(昭和56年)4月
資本金/1,000万円
従業員数/12名 令和3年現在(社員・パート含む)
事業内容/メガネ用特殊リム部品の製造・販売、
ペンディング加工、コイル用材料販売

株式会社 リム精工 第二工場ペンディング部
〒916-0016 鯖江市神中町2丁目4-28
☎0778-51-0867 FAX.0778-52-8609
[E-mail] <http://rimseiko.co.jp/>
[URL] <https://www.rim.co.jp/>